
IBM Prerequisite Scanner バージョン 1.2.0.18 クイック・スタート・ガイド

本書は、IBM® Prerequisite Scanner バージョン 1.2.0.18 のインストールと実行を開始するのに役立ちます。

各国語版: 他の言語でのクイック・スタート・ガイドを入手するには、IBM サポート・ポータルで PDF ファイルにアクセスしてください。

ツールの概要

Prerequisite Scanner は、実際のデプロイメントを行う前に、指定したソフトウェアの前提条件の識別、検査、および検証を実行するためのスキャン・ツールです。このツールにより、前提条件プロパティに設定された値に基づいて、ハードウェア前提条件およびソフトウェア前提条件がスキャンされます。このツールは、コマンド・ライン・インターフェースにスキャンの結果を表示し、テキストおよび XML ファイル (オプション) へのその結果の保存も行います。ログ・ファイルへの通知メッセージおよびデバッグ・メッセージの書き込みも行います。

手順 1: ソフトウェアおよび資料へのアクセス

Prerequisite Scanner は、オフラインのメディアにパッケージされます。あるいは、このツールの最新バージョンを IBM サポート・ポータル (<http://www-933.ibm.com/support/fixcentral/swg/selectFixes?product=ibm/Tivoli/Prerequisite+Scanner&release=1.2.0.18&platform=All&function=all>) からダウンロードすることもできます。ダウンロードするには、ご使用の IBM ID とパスワードを入力する必要があります。

次のように、Windows プラットフォームと UNIX プラットフォームをサポートする 2 つの入手可能な別個のパッケージがあります。

- 1.2.0.18-Tivoli-PRS-Windows-fp0001.zip Windows パッケージは、さまざまな Windows プラットフォームをサポートします。
- 1.2.0.18-Tivoli-PRS-Unix-fp0001.tar.gz UNIX パッケージは、AIX®、HP-UX、Linux、Linux for System z®、および Solaris の各プラットフォームをサポートします。

各パッケージには、そのリリースでの新着情報、新規の前提条件プロパティや変更された前提条件プロパティ、新規の構成ファイルや変更された構成ファイル、および非推奨になった機能の概要を説明する README ファイルが含まれています。

このツールの資料については、Prerequisite Scanner page at Tivoli® Documentation Central (<https://www.ibm.com/developerworks/community/wikis/home?lang=en#!/wiki/Tivoli%20Documentation%20Central/page/IBM%20Prerequisite%20Scanner>) を参照してください。

手順 2: ハードウェア構成とシステム構成の評価

Prerequisite Scanner は、サポートされているオフリングのすべてのハードウェアおよびオペレーティング・システムで稼働します。

オフリングをどのようにデプロイするか (単一のサーバーか、分散環境かなど) を決定します。

1. このツールを単一のサーバー、または分散環境の各ターゲット・システムにインストールします。

重要: Prerequisite Scanner がオフリングのメディアから使用できる場合は、インストールしなくても、メディア上のツールを実行できます。

2. Prerequisite Scanner product codes の説明に従って、オフリングの製品コードを判別します。

注: 同じターゲット・システムに複数のサポートされるオフリングをインストールする場合、それらのオフリングのすべての前提条件を単一のスキャンで検査するように、ツールを実行できます。

3. インストールされるオフリングのコンポーネントまたはデプロイメント・シナリオに基づいて、どの前提条件のセットをスキャンするかツールに対して示す環境変数を、オフリングが使用するかどうかを、8 ページの表 1 の説明に従って判別します。
4. ツールを実行します。

次のユーティリティーが、ターゲット環境にインストールされているか、ターゲット環境で使用できることを確認します。

ターゲット・システム	前提条件
Windows	<ul style="list-style-type: none">• 事前定義された接続コレクターでの接続検査が適切に動作できるように、Telnet クライアントが有効になっていること。• Prerequisite Scanner が Windows Management Instrumentation (WMI) 要求を発行してシステム・データを入手できるように、WMI サービスである Winmgmt が実行中であること。• Prerequisite Scanner を実行するための十分なディスク・スペースがあること。このツールが必要とするディスク・スペースは次のとおりです。<ul style="list-style-type: none">– ツールの実行時に debug 入力パラメーターを指定しない場合は 4 MB。– ツールの実行時に debug 入力パラメーターを指定する場合は 6 MB。 <p>ツールは、ディスク・スペースが十分でないことを検出すると、エラー・メッセージを表示して終了します。</p> <p>重要: 必要なディスク・スペース量とは、Prerequisite Scanner のほとんどのユース・ケースをサポートするのに十分な量です。ディスク・スペースは、構成ファイルの数や、その構成ファイル内の前提条件プロパティーに数に基づいて変動する可能性があります。大規模な構成ファイルがあるいくつかの製品をツールがスキャンする場合、より多くのディスク・スペースが必要になる場合があります。</p>

ターゲット・システム	前提条件
UNIX	<ul style="list-style-type: none"> • Prerequisite Scanner を実行するための十分なディスク・スペースがあること。このツールが必要とするディスク・スペースは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> – ツールの実行時に debug 入力パラメーターを指定しない場合は 5 MB。 – ツールの実行時に debug 入力パラメーターを指定する場合は 6 MB。 <p>ツールは、ディスク・スペースが十分でないことを検出すると、エラー・メッセージを表示して終了します。</p> <p>重要: 必要なディスク・スペース量とは、Prerequisite Scanner のほとんどのコース・ケースをサポートするのに十分な量です。ディスク・スペースは、構成ファイルの数や、その構成ファイル内の前提条件プロパティに数に基づいて変動する可能性があります。大規模な構成ファイルがあるいくつかの製品をツールがスキャンする場合、より多くのディスク・スペースが必要になる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 非 root ユーザーの場合、Prerequisite Scanner が mount、swapinfo、および psrinfo の各コマンドを使用できるように、それらのコマンドの場所を PATH 環境変数に設定していること。コマンドは /usr/sbin ディレクトリーにあります。例えば、PATH 環境変数を次のように設定します。 <pre>export PATH=\$PATH:/usr/sbin/</pre> • setuid ビットなどのアクセス権フラグによって設定される特定の権限をはじめとする適切なアクセス権が lscfg コマンドに割り当てられていること。適切なアクセス権とは、Prerequisite Scanner がコマンドを実行してシステム情報を取得できるアクセス権です。コマンドは /usr/sbin ディレクトリーにあります。例えば、setuid ビットを lscfg に対して設定するには、次のように chmod コマンドを実行します。 <pre>chmod 4777 /usr/sbin/lscfg</pre>

手順 3: Prerequisite Scanner のインストール

IBM サポート・ポータルからツールをダウンロードした場合は、該当のプラットフォーム用の圧縮ファイルの内容を、選択した場所に解凍します。この場所は、*ips_root* と呼ばれます。圧縮ファイルの内容の解凍は、オフリングのインストーल対象の各ターゲット・システムに対して行う必要があります。

重要: 圧縮ファイルの内容を解凍するルート・ディレクトリーに対して、書き込みアクセス権を持っている必要があります。

圧縮ファイルの内容を解凍したら、Prerequisite Scanner を実行する準備ができています。

手順 4: Prerequisite Scanner の実行

Prerequisite Scanner は、コマンド・ラインで実行できます。Prerequisite Scanner スクリプトである **prereq_checker** は、必須パラメーターとオプション・パラメーターのセット、および追加のオプション・パラメーター用に 1 つのコマンド・フラグを受け入れます。

1. コマンド・ウィンドウを開き、*ips_root* ディレクトリーに移動します。

2. オファリングが環境変数を使用して、ターゲット・コンピューターにインストールする予定のコンポーネントを Prerequisite Scanner に対して示す場合、該当の環境変数の値を True に設定します。例:

- Windows システムの場合: `set ENV_NAME=True`
- UNIX システムの場合: `export ENV_NAME=True`

注: Jazz™ for Service Management バージョン 1.1.0.1 以降のフィックスパックも、環境変数を使用して、Jazz for Service Management のフレッシュ・インストール (`JazzSM_FreshInstall=True`) であるか、既存の Jazz for Service Management インストール済み環境の更新 (`JazzSM_FreshInstall=False`) であるかを示します。

3. 該当するパラメーターを指定して、Prerequisite Scanner スクリプト・ファイルである `prereq_checker` を実行します。パラメーターおよび有効な製品コードの完全なセットについて詳しくは、5 ページの『パラメーター』および Prerequisite Scanner product codes を参照してください。

Windows

```
prereq_checker.bat
!!Product_Code [Product_Version][,Product_CodeN [Product_VerN]...]!!
[outputDir==!ips_output_dir!]
[xmlResult]
[configHomeDir==!config_files_home!]
[detail|detail -s|detail -a]
[prereq_checker.bat version |-listcodes]
```

UNIX

```
./prereq_checker.sh
!!Product_Code [Product_Version][,Product_CodeN [Product_VerN]...]!!
[outputDir==!ips_output_dir!]
[xmlResult]
[configHomeDir==!config_files_home!]
[detail|detail -s|detail -a]
[prereq_checker.bat version |-listcodes]
```

例 1

この例では、KZE 製品コードを使用して、IBM Tivoli zEnterprise® Monitoring Agent に対して Prerequisite Scanner を実行します。 `detail-s` パラメーターは、このツールが、全体的な結果と FAIL の結果および WARN の結果になった前提条件プロパティを含めた、短縮した結果をコマンド・ウィンドウに出力することを意味します。このツールは、結果とログ・ファイルの場所を、オプションの `outputDir` パラメーターで指定されている `ips_output_dir` ファイル・システム・パスに設定します。 T

重要: マウントした CD、DVD、読み取り専用ファイル・システム、ネットワーク・ドライブのいずれかから Prerequisite Scanner を実行することを選択する場合、 `outputDir` パラメーターを使用して場所を指定する必要があります。 `ips_output_dir` への書き込みアクセス権を持っている必要があります。ない場合、Prerequisite Scanner は失敗します。

さらにこのツールは、構成ファイルのホーム・ロケーションを、オプションの `configHomeDir` パラメーターで指定されている `config_files_home` パスに設定します。

Windows

```
prereq_checker.bat
!!KZE 06020300!!
outputDir=!!%TEMP%\ips!!
configHomeDir=!!C:\MyCfgFiles\cfgfiles!!
detail -s
```

UNIX

```
./prereq_checker.sh
!!KZE 06020300!!
outputDir=!!/tmp/ips!!
configHomeDir=!!/usr/myname/MyCfgFiles/cfgfiles!!
detail -s
```

このツールは、次の場所に `result.txt` ファイルおよび `precheck.log` ファイルを出力します。

- Windows システムの場合: `D:%temp%ips`。ここで、TEMP は一時フォルダー用の環境変数です。
- UNIX システムの場合: `/tmp/ips`

例 2

複数の製品コードを指定することで、複数のオフアリング (IBM Tivoli Business Service Manager と IBM Tivoli Netcool/Impact など) の前提条件を検査するためにツールを実行できます。

Windows

```
set TBSM_PREREQ_BOTH=True
set IMPACT_PREREQ_BOTH=True
prereq_checker.bat
!!BSM 06010100,NCI 06010100!!
```

UNIX

```
export TBSM_PREREQ_BOTH=True
export IMPACT_PREREQ_BOTH=True
./prereq_checker.sh
!!BSM 06010100,NCI 06010100!!
```

パラメーター

Prerequisite Scanner は、コマンド・ラインで実行できます。Prerequisite Scanner スクリプトである `prereq_checker` は、必須パラメーターとオプション・パラメーターのセット、および追加のオプション・パラメーター用に 1 つのコマンド・フラグを受け入れます。主なパラメーターは次のとおりです。

`Product_Code [Product_Version][,Product_CodeN [Product_VerN]...`

必須パラメーター

前提条件の検査の実行対象のオフアリングまたはコンポーネントと、関連付けられている構成ファイルを識別するために、少なくとも 1 つの **Product_Code** パラメーターを設定する必要があります。

関連付けられている **Product_Code** パラメーターに対するオプションの **Product_Version** パラメーターは、オフアリングのバージョンを示します。これ

は、バージョン、リリース、モディフィケーション、およびレベルを表す 8 桁のコードで、コードの各部分が 2 桁ずつあります。例えば、7.3.21 は 07032100 になります。

オプションの **Product_Version** パラメーターとともに 1 つ以上の **Product_Code** パラメーターを、コンマで区切って設定できます。

Prerequisite Scanner product codes を参照してください。

[detail|detail -s|detail -a]

オプション・パラメーター

このオプション・パラメーターと、その任意指定のオプションは、コマンド・ウィンドウに表示する結果の詳細レベルを示します。 **detail** パラメーターを指定すると、ツールは、結果全般と、各前提条件プロパティに対するスキャン結果を含む詳細な結果をコマンド・ウィンドウに出力します。 **-s** オプションを指定して **detail** パラメーターを指定すると、ツールは、結果全般と、**FAIL** や **WARN** の結果になった前提条件プロパティのみを含む短縮した結果を出力します。 **-a** オプションを指定して **detail** パラメーターを指定すると、ツールは、出力の集約セクションを非表示にします。

[outputDir=!!ips_output_dir!!]

オプション・パラメーター

これは、Prerequisite Scanner のスキャン結果とログ・ファイルの出力ディレクトリーを、*ips_output_dir* 値の指定によって設定することを示します。

[xmlResult]

オプション・パラメーター

これは、プレーン・テキストの結果ファイルに加えて、XML 結果ファイル *ips_output_dir/result.xml* に結果を出力することを示します。

[configHomeDir=!!config_files_home!!]

オプション・パラメーター

これは、*config_files_home* パスの指定によって、構成ファイルのホーム位置を示します。ツールは、ターゲット環境をスキャンするときに、この場所の構成ファイルを使用します。この入力パラメーターを指定しない場合、次のデフォルトの場所が使用されます。

- UNIX システムの場合: *ips_root/UNIX_Linux*
- Windows システムの場合: *ips_root\Windows*

重要: ホーム位置には、マウントした CD、DVD、読み取り専用ファイル・システム、ネットワーク・ドライブを指定できます。`config_files_home` から読み取るための読み取りアクセス権を持っている必要があります。ない場合、Prerequisite Scanner は失敗します。このホーム位置の構成ファイルのファイル名は、次のように標準的なファイル命名規則に従う必要があります。

`product_code[_<version>].cfg`

ここで、各部分の説明は次のとおりです。

- `product_code`

これは、Windows システムまたは UNIX システムの製品コードを表す変数です。製品コードは、製品、およびオプションで、その製品がサポートするオペレーティング・システムのバージョンを識別します。このコードは、`codename.cfg` ファイルに格納されます。複数のプラットフォームをサポートする製品には、複数の製品コードが存在する場合があります、それぞれのコードが 1 つの製品、プラットフォーム、および必要に応じてオペレーティング・システムのバージョンを識別します。

- `<version>` は、バージョン、リリース、モディフィケーション、およびレベルを表す 8 桁のコードで、コードの各部分が 2 桁ずつあります。例えば、7.3.21 は 07032100 になります。

[PATH=!!product_root!!]

オプション・パラメーター

これは、インストールされるオフアリングのインストール・ディレクトリーを示します。

このパラメーターを指定しない場合、デフォルトのパスは次のとおりです。

- UNIX システムの場合: Disk 前提条件プロパティーが構成ファイルに指定されている場合 `opt/IBM/ITM`
- Windows システムの場合: `C:¥IBM¥ITM`

version|-v

ツールのバージョンを検査するときのみ必須パラメーター

ツールのバージョンを検査するときは、このパラメーターのみを設定する必要があります。前提条件をスキャンするためにツールを実行するときこれを指定しても、ツールはスキャンのみを実行します。**version** 入力パラメーターの使用法に関する情報メッセージは出力されますが、バージョンの詳細は出力されません。

UNIX システム

```
./prereq_checker.sh version
```

Windows システム

```
prereq_checker.bat version
```

パラメーターの完全なリストについては、Tivoli Documentation Central の Prerequisite Scanner ページからアクセスできる、資料の最新バージョンの『`prereq_checker`』トピックを参照してください。

環境変数

環境変数を使用するオフリングと、それらの環境変数の概要を次の表に示します。

表 1. オフリングごとの Prerequisite Scanner の環境変数

オフリングのバージョン、プラットフォーム、オペレーティング・システム	インストール・オプション	環境変数
IBM Tivoli Netcool Performance Manager バージョン 1.4.0、1.4.1、1.4.2	Impact Oracle サーバーのインストールのみ	TNPM_ORACLE_SERVER
	Impact Oracle クライアントのインストールのみ	TNPM_ORACLE_CLIENT
	Oracle データベースのスタンドアロン・インストール	TNPM_STAND_ALONE
IBM Tivoli Netcool Performance Manager バージョン 1.4.0、1.4.1	Impact Oracle サーバーのインストールのみ	TNPM_ORACLE_SERVER
	Impact Oracle クライアントのインストールのみ	TNPM_ORACLE_CLIENT
	Oracle データベースのスタンドアロン・インストール	TNPM_STAND_ALONE
Tivoli Business Service Manager バージョン 6.1.1	データ・サーバーのインストールのみ	TBSM_PREREQ_DATA
	ダッシュボード・サーバーのインストールのみ	TBSM_PREREQ_DASH
	ダッシュボードとデータの組み合わせサーバーのインストール	TBSM_PREREQ_BOTH
Jazz for Service Management バージョン 1.1.0.1 およびそれ以降のバージョン 1.1 のフィックスパック	フレッシュ・インストールまたは既存のインストール済み環境の更新	JazzSM_FreshInstall
Jazz for Service Management の Registry Services ヒント: Jazz for Service Management は、ツールを実行し、これらの環境変数を設定する、コンビニエンス・スクリプトを使用します。これらの環境変数を設定するのは、Registry Services の構成ファイルを使用してツールを実行する場合のみにしてください。	フルインストール	JazzSM_TYPICAL
	カスタム・インストール、DB2 [®] サーバーのインストールのみ	FRS_DBSERVER
	カスタム・インストール、アプリケーション・サーバーのインストールのみ	FRS_BACKENDSERVER

表 1. オファリングごとの Prerequisite Scanner の環境変数 (続き)

オファリングのバージョン、プラットフォーム、オペレーティング・システム	インストール・オプション	環境変数
Tivoli Netcool® Configuration Manager バージョン 6.4.0 および 6.4.1 ヒント: Tivoli Netcool Configuration Manager に対してスキャンを実行するには、 <i>ips_root/NCM.sh</i> スクリプトを使用します。このスクリプトは、スキャン対象のコンポーネントを選択するプロンプトを表示し、その選択内容によって、環境変数を自動的に設定します。	コンプライアンス・コアのインストール	TNCM_COMPLIANCE_CORE
	コンプライアンス評価エンジンのインストール	TNCM_COMPLIANCE_EVALUATION
	プレゼンテーション (GUI) サーバーのインストール	TNCM_PRESENTATION_SERVER
	Tivoli Common Reporting のインストール	TNCM_REPORTING
	ワーカー・サーバーのインストール	TNCM_WORKER_SERVER

詳細情報

詳しくは、次の資料を参照してください。

- IBM サポート・ポータル の IBM Prerequisite Scanner ページを参照してください。
- Service Management Connect の Prerequisite Scanner コミュニティを参照してください。これらのトピックにお気軽に投稿してください。

IBM Prerequisite Scanner バージョン 1.2.0.18 Licensed Materials - Property of IBM. © Copyright IBM Corp. 2009, 2014.

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java™ およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。